

NEWSLETTER

発行責任者 第30回(一社)日本看護学校協議会学会長 中村 直也



台風で開催が危ぶまれましたが、8月23日・24日の2日間、全国から総勢500名を超える方々が鹿児島に集まり、無事学会が開催されました。

「看護教育維新 ～学生が輝くために～」をテーマとして、講演、研究発表、懇親会等が行われました。



学会長挨拶

学会長 中村 直也 (鹿児島医療技術専門学校)

明治維新から150年、その原動力となった鹿児島の地で、これから大きく変わっていく社会と医療・看護に向かって、どのような基礎教育が必要か、どのような考えで指導していくかなど、多くの方々がこれからの感じ、学んでいただけるのではないのでしょうか。

前年より鹿児島県の看護学校14校が協力しながら取り組んできました。また、後援いただきました、厚生労働省、文部科学省、日本医師会、日本看護協会など8団体と、協賛いただきました21団体のご理解とご協力に感謝申し上げます。



1日目

開会式

鹿児島市民文化ホールにて約520名の参加をいただき、また、厚生労働省、鹿児島県、鹿児島市、鹿児島県医師会、鹿児島県看護協会よりご臨席いただき、開会式が行われました。

また、ご来賓の鹿児島県くらし保健福祉部次長橋口秀仁様、鹿児島県医師会会長池田琢哉様、鹿児島県看護協会会長田畑千穂子様よりご挨拶いただきました。



講演1 「看護行政の動向」

関根 小乃枝 様 (厚生労働省医政局看護課教育体制推進官)

厚生労働省における看護行政の動向として、看護職員の就業状況と確保対策、看護職員の養成、国家試験、特定行為研修制度についてご講演いただきました。

看護職員の養成については、看護基礎教育検討会における内容についても触れられて、領域横断の考えに基づくカリキュラムの設定例やケア環境とチーム体制を理解し活用する能力などの話がありました。2022年度予定のカリキュラム改正に向けての各校での検討や準備の必要性を感じました。

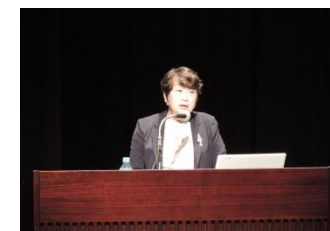


講演2 「看護職生涯発達学からみた看護基礎教育」

佐藤 紀子 様 (東京慈恵会医科大学医学部看護学科 教授)

「看護職生涯発達学」は、「教える人-学ぶ人」という関係性を越えたところからスタートしています。教員と学生との学修過程は相互行為によるもので、患者との相互行為を通して実践する看護学に非常に近い位置にあります。

看護師のキャリアの可能性を模索しつつ、看護基礎教育で学ぶ学生を「看護職生涯発達学」の視座から捉え直すという機会をいただき、教員も「生涯を通して発達する存在」であることのご講演をいただきました。



基調講演「専門職連携教育の理論と現状」

酒井 郁子 様（千葉大学大学院看護学研究科 専門職連携教育研究センター長）

日本における専門職連携教育（IPE）の実装の実態と課題、および基礎教育IPEに必要な基礎的知識とIPE実装のための手順についてのご講演をいただきました。特に新カリキュラムでは専門職連携教育は必須であり、看護師等学校養成所におけるIPEの実装手順書案として①教員がIPEの知識と情報を得てIPEにコミットする②IPEに関わる人すべてを巻き込み計画をたてる③IPEカリキュラムを構築する④IPEをスタートする⑤信頼されるIPE科目にするの5点を提示いただき、今後の参考となりました。



シンポジウム

コーディネーター 池西 静江 様（日本看護学校協議会 会長）

渡辺 美保子 様（ポラリス保健看護学院 副学院長）

シンポジスト 小山 幸代 様（北里大学看護学部・大学院看護学研究科 教授）

成松 裕子 様（鹿児島大学医学部保健学科 教授）

3名のシンポジストの先生方より、「養成所における臨床との連携」「学内における他学科との連携」「大学における専門職連携教育」の実際について、それぞれの立場や経験から、そして、実施している立場からご講演をいただきました。

看護基礎教育においては、今後、多職種とどのように連携・協働するかが重要と becoming. このシンポジウムを通して、各養成所がどのように多職種連携教育を実施していけば良いかを考える機会となりました。



懇親会

雄大な桜島を目前にしたウエルビューかごしまにて94名のご参加を頂き、懇親会を行いました。

中村学会長、池西協議会会長のあいさつの後、星協議会副会長の首頭で乾杯を行い懇親会が開始されました。今年は会席料理で鹿児島の郷土料理を中心にしたメニューが出されました。また、鹿児島の代表的な3Mといわれる焼酎（魔王、村尾、森伊蔵）も用意して、それぞれの味を楽しんでいただきました。

会の途中では、鹿児島最大の祭りのおはら祭で踊る「おはら節」と「ハンヤ節」を三味線と太鼓で演奏し、看護学生さんの参加もいただき、会場内を練り歩きました。参加者の飛び入り参加もいただき大いに盛り上がりしました。

懇談では、ゆっくりと料理をいただきながら、学会のこと、カリキュラム改正に向けてのこと、学生のことなど意見交換を行い、お互いの交流を深めることができました。

最後に、鳥井元協議会副会長の挨拶を頂き、あっという間の2時間を終えました。

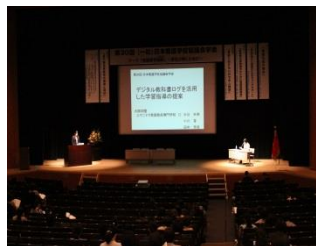


2日目

研究発表【口演】

2つの会場にて合計23題の発表がありました。

教育方法や実習に関することなどそれぞれの養成所が学生を主体とした取り組みや検討をされていて、興味や関心のあるテーマが多く感じられました。発表後の交見室では、多くの質疑もあり意見交換もなされていました。



研究発表【示説】

桜島を望む展望ギャラリーでの実施で、合計21題の発表がありました。

多くの聴講の方が参加され、熱気にあふれた発表でした。質疑・応答の時間も活発な意見交換がなされ、時間が短く感じられました。



懇談会(准看護師教育施設部会企画)

日本看護学校協議会常任理事の中西亜紀様を座長として、「准看護師教育を考える」をテーマに懇談会を持ちました。今後の准看護師教育について積極的な意見交換が行われました。



特別講演「看護といのちの文化人類学」

波平 恵美子 様 (お茶の水女子大学 名誉教授)

看護は対象となる人々の「生命」と「生活」を護るという2つの使命を持っています。看護の現場では、一人一人の対象と向き合い、その時々により変化する「生きていく」ということに目を向け、援助を実施していきます。

先生の講演では、生命とは何か、生きるとは何かを改めて問われたようにも感じて、考える機会となりました。看護学生も聴講し、「感動しました」という感想も聞かれ、先進医療が進む中において、脳死や臓器提供、延命治療などを改めて考える機会をいただきました。



閉会式

2日間のプログラムが終了し閉会式が行われました。中村直也学会長と日本看護学校協議会池西静江会長からお礼の言葉があり、大会旗が中村学会長より次期主催校である学校法人大麻学園四国医療専門学校副校長笠井勝代様に手渡されました。



協賛・広告・展示をいただいた企業様、誠にありがとうございました。

株式会社 医学書院
医歯薬出版株式会社
株式会社 インターメディカル
株式会社 京都科学
株式会社 クマノミ出版
株式会社 照林社
株式会社 スリーダイン
有限会社 創文社印刷
東洋羽毛工業株式会社
ナガイレーベン株式会社
学校法人 原田学園

株式会社VIPグローバル
株式会社 メヂカルフレンド社
株式会社 メディカ出版
株式会社 メディクプランニングオフィス
株式会社 メディックメディア
ライズ株式会社
有限会社 ラウンドフラット
株式会社 ラーンズ
理想科学工業株式会社
株式会社レジーナ

(50音順・敬称略)

次期第31回(一社)日本看護学校協議会学会のご案内

開催日 2019年8月23日(金)、24日(土)

開催場所 サンポートホール高松 (香川県)

事務局 学校法人大麻学園四国医療専門学校

詳しい情報は、一般社団法人日本看護学校協議会ホームページにアップされる予定です。
多くの方の参加をお待ちしております。

一般社団法人日本看護学校協議会のご案内

全国426校(平成30年8月現在)が加盟する団体です。当協議会の社会的役割としては、看護学校教育、看護基礎教育の質的向上を目指し、社会の要請を察知しながら、より質の高い看護サービスを提供できる看護職の養成について、常に追究し続ける重要な団体としての活動です。看護教育の充実を目的に学会や各種研修会等を開催しております。加盟を希望される学校は、協議会事務局までお問い合わせください。

一般社団法人日本看護学校協議会事務局

TEL: 03-3537-7381